



町村においても、同様に排出量が減少傾向にあります。

国保診療所関係

前年同比1日3人の減

11月末現在の外来患者数の状況は、延べ7,241人(1日平均44人)で、昨年同期と比較し420人の減(前年度1日平均47人)という状況です。

また、診療所運営収支の状況は、11月末までの収入が約4,150万円、支出は約5,550万円で、差引き約1,400万円の赤字額という状況で推移しています。



商工観光課関係

観光客の入込み状況

水中展望船3年連続3万人超す

11月末現在、約114万人と推計しており、前年対比若干の減少傾向を示しています。

各施設の11月末現在の売上状況等については、レストハウス「ペニンシュラ」の売上金額は、前年対比約2%減の状況と報告を受けています。

また、水中展望船については、10月26日で運航を終了しており、運航実績は、利用者3万945人(前年対比754人の減)、売上金額3,596万円(前年対比112万円の減)という状況です。十月の時化等による運航中止の影響を受け、昨年を若干下回りましたが、香港からの利用客の増もあり、3年連続で3万人の利用客となりました。

「味処しゃこたん」については、11月5日で営業を終了しており、売上金額は、前年対比3%の減、約1,017万円となっております。

継続的なイベント 取り組みの重要性

冬季の街の活性化を願って、昨年に引き続き積丹飲食店組合が主催した「第2回はしご酒大会」が11月10日催され、町内外から参加した約200人の方々が、はしご酒を大いに楽しみました。

また、今年で5年目を迎えた「どっこい積丹冬の陣」の第1弾が、11月18日総合文化センターで開催され、約1千人の観光客などで賑わいをみせました。

また、同日同会場で開催された「にしんルネサンス」事業では、にしん豊漁時代のビデオ上映やにしん料理の提供、更には、後志支庁長や江差町観光コンベンション協会会長ら約20人を招いての「にしん街道」標柱の除幕式が、同センター前庭で併せて行われました。第2弾は、12月2日、岬の湯しゃこたんを会場に「積丹鍋の競演」が開催されるところです。

こうした冬期観光に向けた取り組みは、町内の商工観光団体を中心に、地域の振興をめざして様々な課題を乗り越えながらその実現に努力されているところ



るであり、対外的な認知や知名度を高めるための継続的な努力の積み重ねが重要であろうと考えております。また、このことが、今後における通年型観光に向けた観光シーズンの延長化につながるものと期待しているところです。

横丹観光協会に道産業貢献賞 冬期観光への取組評価

平成18年度北海道道産業貢献賞(観光事業功労者)表彰式が、11月17日、京王プラザホテル札幌で行われ、横丹観光協会が、冬季観光への取り組みなど永年にわたる観光振興策に対する地道な活動が評価され、高橋北海道知事から表彰状が贈られました。

関係者の方々のこれまでのご努力に対しまして敬意を表したいと思えます。

■ 岬の湯しゃこたん 冬期料金引き下げ

平成18年11月末現在の利用状況は、入浴者数10万9,835人(前年対比6,226人の減)、入館料等収入総額1億430万円(前年対比716万円の減)という状況です。

なお、冬期間の利用客の増大対策の必要性について、町議会议行財政改革等調査特別委員会等でご意見をいただいている経緯にありますが、期間限定による利用料金の引下げと運営経費の縮減策について検討を急いでいるところであり、利用料金の引下げについては、町行財政改革推進委員会の意見をも伺い関係条例の改正を行います。

農林課関係

農業生産の概況

■ 当初計画より4%増

11月末における農協取扱額は、当初計画に比べ、約4%増の5億3,400万円が見込まれている状況です。

昨年に増して、大雪による雪



解けが遅れ、更に、7月からの干ばつに近い少雨の気象条件下で、作柄が懸念された畑作は、昨年実績並の約1億900万円(前年度1億1,000万円)の生産見込額との報告を受けております。

馬鈴薯については、干ばつの影響により小玉傾向と一部疫病発生などがありながらも、生産量は計画比92.6%、生産額で103.6%、約1,700万円でありました。

カボチャは、小玉傾向が顕著で、生産量では計画比85.6%という結果でしたが、生産額としては、価格動向の高値維持などから、計画比2.6%増の約4,100万円と見込まれております。

また、ミニトマトは、仁木町トマト生産組合との連携が3年目となり、生産技術の向上が着実に反映され、収量増とともに品質面でも一級品の割合が98%を占めるほどの成果となり、更に、市場傾向から高価格の維持が続いたことなどから、結果として生産額では前年比約45%増(計画比28%増)の約3,100万円の実績となったところで

しかし、戸別の反収に差があることから、来年度は、相互指導のほか、施設栽培の拡充や戦略的な販売手法への取り組みなど、一層の経営努力の向上を目指すこととしております。

畜産については、酪農関係で昨年末からの生乳の生産調整が続き、一層厳しさを増しており、年度計画に比べ生産量で95%、生産額で89%、約2億300万円という状況にあります。生産調整の強化とともに、夏場の消費等の需要不足と乳価の下落が大きな要因です。

肉牛関係では、出荷頭数で計画比11%増、販売額で17%増の約2億2,100万円が見込まれている状況です。

これは、肉牛の対米輸入が再

開されたものの、食の安全性への信頼感の低下などから消費者のニーズが拡大されず、結果として国産牛の価格の高値傾向が持続されていることから、前年比2.3%増の生産額が維持されるものと考えています。

■ オーストラリアとの自由貿易協定の動向

11月29日の北海道新聞で、オーストラリアとの自由貿易協定に向けた「乳製品、牛肉、小麦、砂糖」に対する関税問題」が提起されるといふ報道がありました。

こうした国際的な動きは、「農業」の果たす多様な役割りをはじめ、食料基地を自認する北海道としても、北海道農業の危機であり、農家4万戸の5割にあたる2万1千戸が離農を余儀なくされ、関連する道内経済への甚大な影響は約8万8千人が失職するなど試算されており、北海道経済はもとより、地域崩壊に直結するという深刻な懸念を北海道知事が表明するなど、かつてない危機感が広がっているところだ。

酪農畜産を基幹とする当町においては、牛肉、乳製品等への



水産課関係

漁業生産の概況

ブリ、イカ漁が好調

11月末日現在の総水揚量は3,416トン(前年対比13%増)、総水揚額は約13億3,800万円(前年対比12%増)という状況で推移しています。

2年続けての不漁年を経て、本年は、夏から秋にかけてのブリ漁の好調や11月からの前浜漁場でのイカ漁の豊漁と、秋ホッケ漁の平年近くの水揚げなどにより、夏漁の不振を挽回したことが要因と考えております。

今後は厳しい冬期間の操業に向かうことから、安全操業の励

行による漁船海難事故防止対策に万全を尽くされるよう願っています。

水産種苗生産センター

春種苗出荷後に休止へ

このことについては、施設の老朽化が著しく、改修費に多額の財政負担が見込まれることから、昨年来、行財政改革検討事業の重要な課題の一つとして、休業止を含む今後の施設運営の方向性について検討を重ねてきた経緯にあります。

特に、管理運営委託先の東しやこたん漁業協同組合とは、施設の保守管理や職員の安全確保などに困難性が増している状況下での、今後の種苗生産委託経費等の採算の見通しや、同漁協を含むウニ種苗の今後の広域的な供給確保対策などについて、協議を続けてきました。

その結果、本施設でのウニ種苗の生産供給事業は、現在中間育成中の種苗を平成19年春放流向けとして出荷が完了した後、休止することといたしました。

また、町種苗センター休止後のウニ種苗放流事業に必要な種苗の確保対策については、合併前の旧3漁協管内地区における

異なるウニ種苗放流事業の実情をも考慮のうえ、同漁協とともに、新たな供給先の確保について関係機関と協議の結果、平成20年からの放流種苗については、社団法人北海道栽培漁業振興公社鹿部センターから、本町産母貝による放流種苗の供給を受けることができる見通しです。

美国漁港製氷・貯氷

施設整備事業の進捗状況

8月30日着工した本施設については、基礎工事が完了し、現在、躯体工事及び機械設備搬入工事が進められており、12月11日現在の全体工事進捗率は、約64%で、明年2月28日の竣工に向けて順調に工事が進められています。

漁港・漁場整備事業

国道水産公共事業5億4千万円

国の直轄漁港として整備が進められています。美国漁港の北防波堤工事及び余別漁港の西護岸等工事は、12月上旬までにそれぞれの工事が完了しました。

また、道単独事業により各漁港において維持補修工事が実施された漁港は、美国漁港及び野塚漁港では維持浚渫工事、幌武意漁港及び余別漁港(来岸地区)

関税撤廃から自由貿易となれば、肉牛及び生乳の価格暴落が歴然としており、その影響は直撃を免れず、壊滅的な事態になりかねないという極めて危機的な状況に直面すると考えられます。

こうした情勢下で、新おたる農業協同組合をはじめとして、北海道並びに全国の農協中央会では、組織をあげて、関税撤廃の絶対阻止運動を展開しているところです。

国においては、全国の農業を守るためにも、小麦、牛肉、乳製品、砂糖などの重要品目の除外確保等に向けた強固な方針をもって、貿易交渉に臨んでいただきたいと思います。

緑資源機構造林事業

婦美二、神岬の計画事業完了

本年度計画した婦美二地区における下刈り2・5二ヘクタール、神岬地区下刈り30・8ヘクタール及び除伐39・2ヘクタールの作業を降雪前にすべて終了し、11月24日付けで緑資源機構に完了届を提出したところです。



では、低気圧被害による船揚場の滑り材補修工事、日司漁港では岸壁補修・浚渫などの工事が施工され、それぞれ11月末日までに完了しました。

漁場整備事業においては、北海道を事業主体とする神岬地先の「ヤリイカ産卵礁設置事業」及び余別沖の「大型魚礁設置事業」が、10月末日までにそれぞれ完了しています。

これら当町管内において本年度実施された水産関係公共事業予算は、総額約5億4,800万円と見込まれるところですが、年を追って公共事業予算枠の厳しい削減が続いている現在、国・道関係機関のご配慮に感謝を申し上げたいと思います。

低気圧による被害状況 被害総額2千5百万円

10月7日通過した低気圧による主な水産被害は、漁船沈没1隻（余別漁港・来岸）、定置網の破損（美国地区）2件、幌武意漁港及び余別漁港（来岸）の船揚場スベリ材流失45本など延べ8件、被害総額約2,500万円と推計されています。

なお、漁港内に打ち上げられた多量の漂着ゴミの処理並びに、

漁港区域外を含む船揚場の砂利の整地及び滑り材の補修等について、漁業者、漁協等の協力をお願いしたほか、道への要請などにより応急復旧に努めたところでです。

建設課関係

工事発注率97% 契約総額約6千8百万円

本年度発注工事21件の内、すでに完了した主な工事は、町単独公共施設雪害復旧工事、補助小規模治山工事（幌武意漁港地先）など20件、工事契約総額6,779万8千円です。

また、11月末現在の発注率は、97%であり、未発注工事の河口閉塞除去工事1件については、来春の河川増水前の発注を予定しています。



補助小規模治山工事

除雪事業

堆雪場所にご協力を

本年度の町の除排雪計画は、町道105路線35.6km、公共施設内8.4km、合計44kmを常時除雪路線とし、うち町道及び公共施設合計26kmについては、運搬排雪を実施するとともに、美国地区流雪溝の効果的な運用に努めてまいりたいと考えています。

昨年に引続き、11月8日に小樽土木現業所余市出張所管内の除雪会議が開催され、昨年の記録的な大雪により、小樽開発建設部をはじめ各自治体が除排雪作業に苦慮した経緯を踏まえて、厳しい財政状況下での国道、道道及び町道との一層の連携強化を図ることが確認されました。

当町においても、除雪費の削減を余儀なくされている状況下にあります。昨年見直した除雪車出動基準（一夜積雪深10cm）の維持と、町道沿線土地所有者や町民各位による堆雪場所の提供等へのご理解とご協力をいただきながら、効率的な除排雪作業の実施を念頭に、住民生活の安全確保と快適な冬の生活環境の維持に努めてまいります。

道路事業

幌内府橋の架替工事完了

国道229号新西河トンネルに接続する幌内府橋の架け替工事が、11月末日に完了しました。

これにより、平成12年から行われてきた武威トンネル、新西河トンネル間の防災対策工事が終了し、本町の重要な国道道路網の整備向上と交通安全確保が図られたところです。

なお、引続き、余別地区の防災対策事業（新余別トンネル）の早期完成に努めてまいりたいと考えています。

幌武意国有林治山工事

3か月早く完了

幌武意国有林治山工事については、落石防止壁64m、雪崩防止柵19基が当初完了予定の明年2月末より3か月ほど早い11月末日に完了しました。

将来的な防災対策が望まれる国有林が特に多い本町にあつて、国費予算枠の厳しい治山事業の採択に、特にご配慮をいただいた北海道森林管理局石狩森林管理署に対し、深く感謝申し上げます。